

「今できる最高の第九を」

合唱団員減らしマウスシールド着用…

新型コロナウイルスの影響で合唱団の公演中止が相次ぐ中、兵庫県立芸術文化センター（西宮市）は感染予防対策を徹底し、12月12、13日、専属の管弦楽団によるベートーベンの「交響曲第9番（第九）」に挑む。合唱団は人数を3分の1に減らし、マウスシールドを着用するなど飛沫拡散を抑えて歌う。指揮する佐渡裕芸術監督は「今できる最高の第九を」と意気込む。（網 麻子）

佐渡裕氏「コロナ時こそ歌」

来月12、13日、県立芸術文化センター

兵庫県立芸術文化センター管弦楽団の特別演奏会。芸文センター開館15周年に合わせ、5年ぶり3度目の第九となる。関西で活躍するプロの音楽家による「ひよっこプロデュースオペラ合唱団」と、オペラ歌手4人も出演する。第九は年末の風物詩だが、今年は市民参加型の公演は各地で中止の動きが広がる。芸文センターは感染症の専門医の助言を受け、気流確認実験や感染対策を行い、7月にオペラ歌手と合唱団、同管弦楽団による演奏会を開催。無事に実施できたことから、今回の公演に踏み切った。

合唱団は過去の公演では市「年末の第九という日本の大事な文化を途絶えさせたくない」と佐渡芸術監督。「歌は音楽の原点だと思ふ。コロナの時だからこそ、人と人が一緒に生きているんだと感じてもらえるものを届けたい」と話している。



ベートーベンの「第九」公演のちらし

午後2時開演。A席4千円など。11月8日午前10時から発売。芸術文化センターチケットオフィス ☎0798・68・0255



佐渡裕芸術監督 県立芸術文化センター（撮影：三田直之）

11月3日(火) 神戸新聞より

「今できる一き」

今なら皆の心に届くのではないですか。

創立記念講演会。皆（3年）の応援メッセージがあったと思います。

「今」としっかりと向き合う毎日にしよう。